



久松公之海軍  
五

雑  
川  
五

13  
2014  
5上



2704



見外白宇瑠璃卷之五目録

雲 龍

神 棚

紅 足

花 菱

猿赤馬帽子

二十六十一五

坪内雄藏



ひさや。花のつらさとしまらぬおの基取神理場  
 の多りより契おびてしく。城の徳地ありともるるは契  
 れるさして形烈ともつうしくとふふにあく一問はあすの  
 花くともいけさうさうさう伊勢所植柳よりよりなせ  
 あいさつと植とやと作あさゝ無きものいそく植とよ  
 何れもははよりやくえぬ教を新く植つたふささか  
 本曾山はまいでしより吹来所ありさうさうとぬく  
 りさうさういし身は二百年のあは枝さるるは波はさ  
 のた今はははは植とあり我の契とめてさうさうさ  
 き。二ふひ家根はあさゝ植と女契とせはけさうさうあり

やられつあふの谷下へく重りれくはと今太神まの  
 代友とありし社まひうを考あはれくやまのめ  
 けりさあはれ一向えぬ教をゆへくさうさうさうの  
 神植うさうさあふひさうさうおむさうさう今家  
 女の契とるはと重く来りしはとさうさう。天は  
 ことなり。植は成まるるも收るるにありは契とさうさ  
 舞く来りさうさ。さうさう天のおと不るるはか  
 らるる是の来りさうさ。さうさうさうさうさうさ  
 らるる飽りさうさ。ははははははははははははははははは  
 け考るるは不修は美とさうさう。はのさうさうさうさうさ

なれ徳有るものハ失ふ。諸ハ破れい盛られどこのよ  
後しと破れ。雲ハ空よりして岬岬出ら。我々を我  
諸乃とく。岬乃を云ふ。似たり。由ある。れも著し。みぬ  
わしとの。海へ。掲ぐ。口利。口小。り。の。み。母。ご。う。さ。と。り。れ  
穿んとり。し。ゆ

神棚

い。も。や。語り。安。さん。我。太。神。ま。の。代。友。として。神。伴。乃。神  
座。と。威。と。言。る。る。系。と。ぬ。る。る。美。ま。る。身。の。誘。引。れ  
も。若。も。若。く。房。名。や。い。る。先。少。校。な。と。七。後。方。へ。祀。を。い。る。る  
太。神。ま。の。入。り。か。と。と。を。地。の。神。酒。と。言。る。教。と。ま。り。七

て。後。毎。船。飯。乃。お。来。初。尾。と。も。え。る。あ。も。わ。り。又。ハ。一。六。の。日  
と。え。る。あ。も。わ。り。初。の。十。五。に。飾。を。も。わ。り。は。か。へ。誘。引。れ。も。若  
小。甘。乃。の。い。な。ま。ら。の。の。じ。と。く。わ。れ。ら。死。な。れ。ぬ。ら。ん。と  
わ。り。の。神。ぞ。が。ゆ。と。これ。を。少。校。様。として。教。一。毎。朝。若。来  
初。尾。二。日。に。あ。げ。と。三。す。と。飾。の。わ。り。と。我。あ。ふ。い。  
先。一。少。の。あ。も。い。は。を。高。ち。高。が。系。を。柱。び。して。仲。長。の。海  
と。い。ま。か。し。と。い。ぬ。寺。あ。ら。ふ。よ。い。つ。さ。づ。と。采。れ。も。ち。と。守。ま。り。わ  
小。判。と。さ。げ。の。身。命。の。を。よ。大。福。長。あ。ふ。と。く。れ。よ。の。  
み。あ。ら。の。形。毎。お。講。の。は。く。ま。ん。と。ぬ。ら。の。り。も。を。と。い。む  
つ。ら。も。も。あ。ら。ぬ。れ。が。来。と。こ。あ。い。と。じ。う。さ。の。ん。身。あ。ら。に



ごとくに優と海とつらぬちまをせむ。後とつらぬちまを  
 といのり。時とつらぬちまを。臨時は燃ぬ三寸ぬとけおけで  
 由とせまきとつらぬちまを。後とつらぬちまを。つらぬちまを  
 妻及四礼ありつらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを  
 あらに知しとつらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを  
 後とつらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを  
 柳命とつらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを  
 ちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを  
 ちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを

柳命とつらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを  
 ちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを  
 ちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを  
 ちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを  
 ちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを  
 ちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを  
 ちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを  
 ちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを  
 ちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを  
 ちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを  
 ちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを  
 ちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを  
 ちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを。つらぬちまを

天よのかり。高間たかまの系けいよもつと南なりと死しの美み西せい一いつ神かみありまや

和曼わまん

天てんを切きりけ地ちは海うみの國くにこあし又またよそ山やま杖つゑの食をく  
なり笑わらひ以もつ食をく置をの先さき下くだひ。母ははの徳とくと十じゆ合ごうとれ十じゆ振ふ  
れらゝぬまのちり。客きやく意い乃な振ふ振ふも先さきくはんれと  
して何なにも何なにもでも振ふ振ふも梳すとこれといひんぬあつた  
さぬれまのらひ飯いひと喫く飲のむも笑わらひのさく。又また庵いほんすと  
あさくも着き着き無ないして死しあふ。古ふる契せきといひて龍りゆう踏ふまを  
孟もう孟もうの季きと依よ蘇その林りんよかされどもく死したうしとひ  
四季しきにとり。酒しゆ話わ家かの笑わらひも肉食にくをくすれはきり

く。其そのの靈たま脈まれしと懐なつ中ちゆうにまの野の狐こ村むらをれ又また猪ぶた角かく  
小猪こぶた蘇それしはく鶴つる依よ喰くハ血ちと吐つ漢かん英えいハせん中ちゆうとま  
先さきし。素すれ笑わらひ七しち食をくまのハ中ちゆう風ふう依よやまの雷らいと傳つたへ  
笑わらひの石いし菖しょう蒲ぼのゆきをを並ならべし。本ほんと竹たけの葉は  
下くだり草くさ紙しふし。麻あのくはくは万まん葉はと水みづのゆり  
柳やなぎの葉はをていしと死した君きみの代しろをいしとまを  
んを考かんがへし。清せい枝え乃な依よみおし事ことはし。うわ  
まをく笑わらひるの依よみおしと仰おほへれは笑わらひも大おほく  
感かん悦えつして双すう方ほうへくかまぬ

花乃はなの曼まん



あはれはうらうらとに雲霞のあざうりごとくあふいしに成  
小冬ゆりしり都池一乃花不曇賦雅集しやうり  
ぬく幕引三味線琴胡弓報おどりゆきまひ後者  
口写はせよのまよひとれをぬはゆれが覗きてあふ  
あふあやうきれどや南無大い大いの紀世者英と幕  
の糸うらまがうして危るいあゆむゆいあやあぬの  
方まくれの内小藤しあきうら男と美中に並すしめて  
あはれとあはれい何るゆきまひあふあひおのこ只今後  
せんそらうらうらとあふくくくくがきみはる

振志馬帽子

仁和寺れ花の下に描ぬまつくくく愛もも現とも  
かく廣津乃あふくとあふまの今伝さうり小菴さうの  
はしりうらうらいせうしゆくの袖乃香ぞとれあふ橋乃  
白く鳴るあふまこのあやえは湯の敷くせのあふし集  
いよはははははのあふらひんやまかしてあふちあふらに  
あまらあまののあふりとあふらりてあふれどあふら  
のあふらあふらあふらあふらあふらあふらあふらあふら  
紅葉れあふらあふらあふらあふらあふらあふらあふら  
あふらあふらあふらあふらあふらあふらあふらあふら  
あふらあふらあふらあふらあふらあふらあふらあふら  
あふらあふらあふらあふらあふらあふらあふらあふら





瓦

熊

くればしめ月おりの身とて記さるる  
あしきりしりもやれは 舞

右

猪

おしひしひおしり 節おれ糸乃うら  
あしきり 舞はるる 舞はるる 舞はるる

判云

元々月のよりおしひなるに 節おり 節おりの  
節おるる 舞はるる 舞はるる 舞はるる  
名はるる 舞はるる 舞はるる 舞はるる

いづもはるる 舞はるる 舞はるる 舞はるる  
そしてはるる 舞はるる 舞はるる 舞はるる  
さうたはるる 舞はるる 舞はるる 舞はるる  
舞はるる 舞はるる 舞はるる 舞はるる

た

狸

くればしめ月おりの身とて記さるる  
あしきりしりもやれは 舞

右

旗

くればしめ月おりの身とて記さるる  
あしきりしりもやれは 舞

判云

たのうことれがうくはるありて中  
おあじあうーなれおとけ切なる  
実るうまうせうへはるらの腰鼓  
あはるはるも喜色はるま  
ゆらおれ非名の夜まうゆいそる業  
まとうるふとて又お神ろくうく  
名はたらううまは判布の神と  
まうふの勝とらざらー  
た

猫

しひしはるうたうはる  
移つてはるの事おらうをま

衣

移つて  
菊

うらうけく今おまの田移つて考  
うはる化しし移うはる

判云

た乃うたうはる子面中く人ゆあし移つて  
いしうも云るをへあつり衣乃奇ねい  
田移つてうけ西向うあるも化し  
あし故事とゆうふらふた移う

曲<sup>まが</sup>のしを<sup>し</sup>れ<sup>し</sup>一<sup>し</sup>傾<sup>か</sup>け<sup>し</sup>を<sup>し</sup>け<sup>し</sup>こ<sup>し</sup>  
が<sup>い</sup>も<sup>か</sup>た<sup>た</sup>勝<sup>かつ</sup>あ<sup>え</sup>し

た

馬<sup>うま</sup>

ね<sup>む</sup>い<sup>し</sup>も<sup>れ</sup>お<sup>し</sup>ほ<sup>ろ</sup>を<sup>む</sup>い<sup>ら</sup>ふ<sup>か</sup>し  
い<sup>ふ</sup>も<sup>し</sup>も<sup>し</sup>い<sup>い</sup>い<sup>い</sup>ん

た

牛<sup>うし</sup>

か<sup>ら</sup>の<sup>ゆ</sup>め<sup>ほ</sup>し<sup>し</sup>一<sup>し</sup>お<sup>し</sup>い<sup>ら</sup>な<sup>ら</sup>ぬ<sup>ま</sup>に  
い<sup>の</sup>ら<sup>わ</sup>く<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>い<sup>し</sup>こ<sup>し</sup>め<sup>あ</sup>る

判<sup>はん</sup>云<sup>うん</sup>

ま<sup>ら</sup>い<sup>の</sup>ゆ<sup>め</sup>は<sup>か</sup>の<sup>ひ</sup>と<sup>く</sup>え<sup>ん</sup>は<sup>か</sup>き<sup>し</sup>は<sup>か</sup>ら<sup>に</sup>は<sup>か</sup>ら

舞<sup>ま</sup>い<sup>の</sup>と<sup>り</sup>あ<sup>れ</sup>も<sup>ら</sup>い<sup>し</sup>け<sup>し</sup>  
と<sup>り</sup>り<sup>す</sup>て<sup>曲</sup>柄<sup>ま</sup>よ<sup>し</sup>葉<sup>あ</sup>ゆ<sup>ま</sup>い<sup>な</sup>か  
し<sup>お</sup>り<sup>か</sup>く<sup>ゆ</sup>る<sup>衣</sup>の<sup>ほ</sup>し<sup>し</sup>い<sup>に</sup>  
ほ<sup>ら</sup>わ<sup>ら</sup>せ<sup>行</sup>ぬ<sup>あ</sup>く<sup>け</sup>め<sup>い</sup>ゆ<sup>く</sup>  
と<sup>女</sup>中<sup>ま</sup>も<sup>た</sup>よ<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ま<sup>の</sup>か<sup>ら</sup>  
お<sup>の</sup>か<sup>ら</sup>い<sup>し</sup>一<sup>向</sup>り<sup>柄</sup>も<sup>し</sup>も<sup>れ</sup>  
ほ<sup>ら</sup>わ<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>切<sup>る</sup>も<sup>し</sup>い<sup>ち</sup>り<sup>ぬ</sup>  
わ<sup>り</sup>の<sup>つ</sup>き<sup>お</sup>の<sup>り</sup>子<sup>の</sup>持<sup>ち</sup>を<sup>し</sup>ゆ<sup>ん</sup>  
た

扱<sup>あ</sup>

うさぎののめりいん

右

鹿

そよぶらまはさくらん

判云

それすは乃種はさき武老のせはく  
いことわり毛は又は似るもののみんじ  
此君は尾は似るものせのじまふぬ  
ちふらろり毛はさくらん  
さし毛は又よふれものめり種はさき

右のうさぎはさくらん

一入し毛はさくらん

かぎ毛はさくらん

右

兔

さくらんはさくらん

あつた毛はさくらん

右

りか

さくらんはさくらん

判云

たの清くあせ中れくふ及稀しあにのそ  
 とく入るまははうりあひくもやまが身  
 ちまよとわそりくあまもいよくゆりト  
 向もあふちとむに侍せど一そを仕立を  
 何久くそ衣石のゆ緒をうきく世に新し  
 く中を侍りよまを仕立もたあまを然い  
 ほどた意よあごれあふありさぬか  
 うさか一膳とささえしとさむ

尾

鯢

見えんようしれさうの三十日の月あれや

ほいさらあうう終ぶふもらんが

衣

鯢

ねのいひのうたく一紙も平りの様や  
 あまうなまゆこへ身証してせざ

判云

見えんようし君のの平高り事あま  
 兼うんべの云あうりさうしあは月あ  
 三十日あまあま相うしうけいひあ  
 ちまよしん源もあま中たふりん  
 ありごうくあしゆりたの山作あま



押り強し海龍のくちをすまひくさむ  
 の流もはらうなかりのよかりし海をさかして水  
 しゆもすまひしゆもすまひあらはらうとくぬきま  
 うしゆをかきうたしし強うい横抱て  
 める強しむより淋しき書もあたまより  
 ちまうしゆもさういふあつり判もしたまう  
 ちたあどく目境とあつれゆりあつあつ  
 じゆくしゆも勝のやあつらうしゆもあつあつ  
 押りあつあつしゆもはらうしゆもあつあつ  
 下にたのまはれあつあつあつあつあつあつあつ

あしのももようしゆもあつあつあつあつあつあつ  
 勝いたあつあつあつ

た

犬

おもひあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 いんくしゆもあつあつあつあつあつあつあつ

衣

様

ちしゆもあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 ちしゆもあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

判云

たあしゆもあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

半くわくくく日歌よもえ侍る尾とくわく  
かくくくくくくくくくくくくくくくくく  
ゆえん入ふくくくくくくくくくくくく  
奇くくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく  
ゆくくくくくくくくくくくくくくくく  
あひゆく事あそく事道くわくわくハ 和歌三神  
の事罰と事くくくくくくくくくくく  
よあへん今日ハ判者ハ蒙を反ハ事々と事  
くくくくくくくくくくくくくくくく

むういあづけたの美津うら神洲あは侍とわくあ  
あふくくくくくくくくくくくくくくくく  
さぬ完ふ人うくくくくくくくくくくく  
ゆも操の扇あをれどなかくゆも海をゆ中い  
あそあそと今と心悠くとえくくくくくく  
とくく目はいくく罵めくくくくくくく  
がわめれくくくくくくくくくくくく  
とれのはまはまはまはまはまはまはま  
こくくくくくくくくくくくくくくくく  
おのく事さくくくくくくくくくくくく

かのあしらがゆはぬひも  
 ぞわあともんぬといんこれの  
 云柏子に松くつと南無三寶は  
 何れ

見外... 狂歌... 尾

典籍  
 老店 鷺頭青藜館藏板書目

大阪江戸堀貳丁目大齋橋北詰

今津屋辰三郎

國語正本 吳高陵亭侯章昭解 全部六冊

杜工部集 袖珍翻刻全部八冊 出版 薄用摺全部四冊套入 出来

古今類書纂要 全部七冊

古文真寶 彼崎先生頭書評註 全二冊

古文真寶正文 全二冊

周易新疏 因幡河田先生著 全部十冊

脚氣提要 西田耕悅先生著 附録養生方 全二冊

和漢書畫一覽 袖珍横本 全一冊

增補和漢書畫一覽 袖珍横本 全一冊

此各八旧板、誤ラ正シ遺脱ヲ補シ天明ヨリ文政  
 十至ルマテノ諸名家ヲ撰ミ奉テ新刻ス

狂歌言葉海 四季恋詞寄 全二冊

狂歌續言葉海 雜之部 近刻

狂歌俗名所座知抄 全二冊

後撰夷曲集類題 全三冊

柳翁狂歌類題 全一冊

類題狂歌集 近刻

狂哥鳩乃杖 由縁奇貞柳 全二冊

茶人花押藪 古筆意天人 全一冊

續茶人花押藪 目 全一冊

古今茶事談 全二冊

茶人家譜 珠光ヨリ後代諸流ニ分レタル其門派系圖ヲアラス 一枚摺

茶人系譜 右ノ書ヲ改正シテ増補新列ス一枚摺

增修茶人系譜 右ノ書ニ各茶押ヲ補ヒ新列ス 一枚摺

茶料理調味抄 茶席風雅ノ献立ヲ示ス又茶人傳承ヲ著ス 全五冊

大成宗派圖 唐土名僧本朝五山大徳心黃蘗等ノ法嗣ヲ系ス一枚摺

文林花押集 儒家雅人スヘテ文人ノ茶押ヲアツム 横本一冊

年曆重宝記 寸珍一枚摺

繪本報仇安達原 文惠主人著 石田玉山画 全六冊

繪本西遊記 前篇 全十冊 二篇 三篇 近刊

繪本忠臣藏 前篇 十冊 後篇 十冊

教訓百首繪抄 晁明寺殿録 全二冊

教訓人言草 前篇 後篇 全三冊

和漢詞德抄 繪入 全二冊

教訓壁生草 繪入 全五冊

和歌枕詞補註 尾崎雄鼎大人著 小本 全二冊

掌中冠辭例 薄用摺 横本 全一冊

狂歌題林抄 古今諸名家の狂言と四季恋狂と集り低俗の傍ら 全六冊

狂歌まじり抄 柳亭寛大人著 一名言梁の山 全二冊

狂歌おんがみ 貞松存本堀紫雲より伝る狂言の狂言抄 全五冊

狂歌四方のあひ 四方赤良大人著 大人のかき文集狂言狂言詞事ものなり 全二冊

故昆馬鹿集 新古今狂歌集 前後 二冊宛

狂歌詞の泔水 近來風粹集 全二冊

狂歌當載集 晴天霞集 全二冊

狂歌花書り巴 僧入 全二冊

狂歌三部集 玉雲斎貞右外門業の狂言集三部を録す 全三冊

狂歌七部集 初心 狂歌老の胡馬 詞帝 小本 全七冊

古言梯 攝東魚度大人著 全一冊

同拾遺 香月春岑補遺 全一冊

掌中古言梯 藤重大人補正 全一冊

標註古言梯 全一冊

和歌枕詞補註 尾崎雄鼎大人著 小本 全二冊

掌中冠辭例 薄用摺 横本 全一冊

和歌枕詞補註 尾崎雄鼎大人著 小本 全二冊

教訓をく草

繪入

全二冊

此書のありしるぎ程年小後とすべし一人づつひ  
後て身持ゆへに初らざるに教訓のまゝ

實語教繪抄

法橋玉山画  
附童子教

全一冊

式書の後入りのしるぎ程年小後とすべし一人づつひ  
後て身持ゆへに初らざるに教訓のまゝ

繪本實語教

中沢道三翁関  
法橋玉山画

全五冊

同 童子教

右二同

全五冊

本文に註釈し昔今の物語として又外のまじり  
を後後編入のしるぎ程年小後とすべし一人づつひ  
後て身持ゆへに初らざるに教訓のまゝ

三學往來文智箋

袖珍本

全一冊

此書のありしるぎ程年小後とすべし一人づつひ  
後て身持ゆへに初らざるに教訓のまゝ

新增より山

長門より大書  
法橋玉山画

全一冊

同 増補大成

法橋玉山画  
附童子教

全一冊

尊園親王庭訓往來

大書かき付

全一冊

無幻道人春霞帖

上代やう  
かきよか

全一冊

古今かき法のし

源栢辰編

小本 全二冊

道の八千種

山雲宿稱千家清主人著

全一冊

此書のありしるぎ程年小後とすべし一人づつひ  
後て身持ゆへに初らざるに教訓のまゝ

新撰字鏡

昌住大徳撰  
附考異

全三冊

師說鈔

全一冊

誹諧しり喰

嘯山選

全二冊

芭蕉袖草紙

横本

三冊

此書のありしるぎ程年小後とすべし一人づつひ  
後て身持ゆへに初らざるに教訓のまゝ

古今拾遺物語

全六冊

卷一 五臣庶士の部

神社寺院の部

卷二 怨罵の部

秀敏利の部

卷三 指に異人の部

少年明智の部

卷四 射藝の部

感應の部

卷五 聖跡能書の部

山海の部

卷六 古鏡の部

右のまじりしるぎ程年小後とすべし一人づつひ  
後て身持ゆへに初らざるに教訓のまゝ

法橋玉山畫  
樗撲道人解

人言種

初編既行  
三編近刻

享和二戌九月

東都書肆

浪花書肆

通油町

葛屋重三郎

尾町中橋筋

三扇屋利助

江戸堀三丁目

今津屋辰三郎

